

**第 1 回 宇都宮市総合計画市民懇談会**  
**第 2 分科会 議事要旨**

日程：令和 3 年 1 2 月 2 4 日（金）午前 9 時 0 0 分～

場所：市役所地下 1 階中会議室

項目	発言者	意見
行政評価	謝委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画策定時に想定されていなかった新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）により、様々な分野に影響が出ていることと思う。経済活動の停滞による市の税収の落ち込みや、感染防止対策や経済活動への支援等、支出の増加が推測され、宇都宮市においても収入源と支出の 2 つの部分で影響を受けていると思う。</li> <li>・大阪市など他の自治体でも新型コロナにより、事業の先送りや規模縮小が起きている。</li> </ul>
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮市総合計画では、24 の基本施策の下に 85 の施策が体系化されている。毎年度実施している施策評価において、85 施策のうち、事業ベースで 29 施策が新型コロナの影響を受けているとの結果が出ている。また、大きく影響を受けた 12 施策は施策評価ができなかった。</li> <li>・例えば、イベントや講座の実施など、対面で行うもので、新型コロナの影響が顕著であった。</li> </ul>
	石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響について、影響を加味して目標値を見直すのではなく、影響を受けたものは受けたものとして、目標値に至らなかったとして評価しているということか。</li> </ul>
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策評価では、直近の傾向を表す場合、本来であれば令和 2 年度の実績を用いるが、新型コロナによる影響が顕著なものについては、令和元年度までの実績を用いて評価を行っている。</li> </ul>
	謝委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明いただいた内容について、市民がみた際に分かりやすいよう、どこかに表記しておいた方がいい。</li> </ul>
	横尾福分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 2 の別紙 2 について、参考に記載してあるレーダーチャートが非常に見難い。</li> <li>・市民の満足度と施策の成果とのギャップが顕著なものについてコメントや考察があるといいと思った。もしかすると、評価軸の設定としてズレが反映されている可能性もある。</li> <li>・また、これらの資料は市民に公開されるのか。</li> </ul>
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に公開するかどうかは未定である。</li> <li>・レーダーチャート等、評価は現在進行形で進めており、今後所管部局とも情報共有をしながら、整備実績などの産</li> </ul>

		<p>出指標と市民満足度などの成果指標との間に乖離のあるものの要因について分析していきたいと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 例えば、基本施策 16 などは産出指標の評価はいいが、成果指標は低くなっている。</li> <li>• 次の計画策定に向け、正しい指標の設定の検討などで活用していきたい。</li> </ul>
	謝委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本施策 9 においても産出指標と市民満足度とのギャップが大きく、市民満足度が非常に低い。その他にも、子どもの育成や学校教育についてもギャップが大きいのではないかと思う。こうしたギャップが行政の設定した指標と市民感覚の違いを表しているのであれば、そこをよく追及しないと、施策が絵に描いた餅になりかねないと思う。</li> </ul>
	石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本分科会で議論する際の参考資料として示しているとあったが、今後、外部に発信する際には、コメントを付けるなどより分かりやすくなるといい。</li> <li>• また、そもそも指標の設定がおかしいという話にもなると思うので、引き続き検討をお願いします。</li> </ul>
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 政策評価シートについて、細かい修正等を行い、来年の 1 月中下旬に公開することを考えている。本分科会での資料は、今回議論を行うための材料として取り扱っていただきたい。</li> </ul>
	謝委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市民満足度について、何人を対象にどのようなアンケートを実施したのかが読み取れなかったので、明記した方がいい。</li> </ul>
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市で毎年 7、8 月頃に市民意識調査を実施しており、その結果を用いている。</li> <li>• 市民意識調査は 18 歳以上 80 歳未満の市民 4,800 人を無作為抽出し、郵送で回答いただいている。回収率は 3～4 割程度と思う。</li> </ul>
施策評価	石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 細かいデータ関連については、事後的にメール等で連絡いただくこととし、社会動向の観点や全体的な総括について、皆様の専門で実感する部分とズレがあればご意見をいただきたい。</li> </ul>
	横尾福分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本施策 23 について、上下水道の問題は割と上手くいっているという認識で、市民も問題ないと思っている人が多いと思う。しかし、同ページに記載してある図の通り、今後水消費量は減少していく。使用量が減少した分、生産を減らせばいいと考える人が多いと思うが、水利権の関係から、市は一定量の水を購入し続ける必要がある。そのため、水道料金収入が減少する見通しであること、そういった前提の情報をきちんと伝える必要があると思う。</li> <li>• 前提の情報があれば、節水も必要であるが、市が持っている</li> </ul>

	<p>る水資源を活用していくこともみんなで考えなくてはいけないという議論になると思う。</p>
上下水道局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の通り、今後水道使用量が下がっていくため、上下水道局では、将来水需要予測を立て、現在市が運用している浄水場など、時代に合わせて集約しながらコンパクトな適切な施設としていく計画を考えている。</li> <li>・もう少し市民の方に分かりやすい表現を検討していきたいと思う。</li> </ul>
横尾福分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水について中長期で購入する必要があるということか。</li> <li>・購入して余ってしまう場合もあるのか。</li> </ul>
上下水道局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川治ダムなど、ダムの水利権を購入している。</li> <li>・県が購入しており、県と担当施設を含めて協議しながら、見合ったものを調整している形である。</li> </ul>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前提として共有した方がいい情報は、具体的に示していただいた方がいいと思う。</li> <li>・前提が共有されないと誤った理解につながるかもしれない部分や誤解を与えかねない書き方になっている部分なども、チェックいただきたい。</li> </ul>
水越委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正直なところ水の給水量がそこまで減るものと認識していなかった。老朽化施設の更新需要を一言でまとめているが、市の水道管の問題はどのような状況となっているのか。</li> </ul>
上下水道局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内に水道管の総延長距離が約 3,180km、その他、浄水場や清浄所などの施設が 45カ所整備されており、それらが順次更新時期を迎えている。</li> <li>・市の試算結果から、今後 100年間、国が定める法定耐用年数でそれらの管路を更新した場合、年間約 100億円の費用がかかる予測を立てている。</li> <li>・水道施設の機能を保持した状態で使用が見込まれる最大の年数である使用可能年数を設定し、管路を更新した場合でも、年間約 40億円の費用が必要となる。</li> <li>・これらの試算は宇都宮市水道施設更新・長寿命化基本計画で実施しており、当計画については、具体的な取組みを示す実施計画を作成している。</li> <li>・令和 48年以降の 20年間に管路の更新需要のピークが来る予測を立てている。将来的に年間 40億円あまりの投資が必要となる一方で、水道使用量は減少していくため、長期的な視点から、更新のピークを前倒しし、一定程度の収入がある中で、水道管の更新を進めている。</li> <li>・その他の事業も含めて、今のところ直近 10年間においては水道料金の収入で賄える見込みであるが、将来的には水道料金収入は減少していくため、将来負担を見据えながら、水道料金の改正の議論等もこの先で考えると考え</li> </ul>

		ている。
	謝委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本施策 12 について、宇都宮市の強みの 1 つとして、多文化の受け入れや、多様な人々が活躍していることがあげられる。例えば、社会動向の部分など控えめな表現をしていると感じた。多文化共生が推進されてきていることをもっと盛り込んで表現できるといいと思う。</li> <li>指標について、講座の受講者が減っているとある。例えばオンラインの講座を実施するなど、これから工夫していくことを盛り込めるといいと思う。</li> </ul>
	石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価に関して、ネガティブチェックで悪い部分を示しがちだが、進めている部分はきちんと強みとして表現した方がいい。</li> </ul>
	謝委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本施策 9 について、宇都宮市は、防災の面では安心・安全な場所であり、非常な強みとして捉えている。また、産業の発展、交通の便からも立地条件がいい。それらも宇都宮市の強みとして意識して表現されるといいと思う。</li> </ul>
	永井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本施策 9 について、防災への意識の部分で、宇都宮市が防災の面で安心・安全という土壌があるため、逆に市民の防災意識低い面があると思う。これから 10 年先を考え、巨大地震等の大規模災害へ対応するためには、防災意識を高める必要があることを市民にもっと発信していく必要があると思う。</li> </ul>
	石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本施策 9 の市民満足度の状況について、令和元年から令和 2 年にかけて下がっている。理由として、田川の氾濫や台風 19 号の影響など、考えられる要因を記載した方がいい。下がっていることで悪い印象になってしまう。</li> </ul>
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本施策 9 について、施策指標ではかなり高い評価を得ているが、市民意識調査になると、その時々社会情勢も関係し、不満足という形で評価されてしまっている部分がある。</li> </ul>
	石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明いただいた内容などを総括の部分に記載してはどうか。</li> <li>施策評価について、1 つ 1 つを掘り下げる時間が確保できないため、それぞれ専門の部分について、分科会後に読んでいただき、おかしいところなどは、メール等で後日事務局にご連絡いただくことで対応させていただきたい。</li> </ul>
10 年後のあるべき姿	石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料 4 を参考に 10 年後のあるべき姿についてコメントをいただきたいと思う。</li> <li>将来を見通す上で必要な観点や現在感じていることなどでも、そこから未来を考えていけると思うので、発言いただきたい。</li> </ul>
	永井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家問題が本当に深刻である。法的な整備あるいは、強</li> </ul>

	<p>制力のある措置が必要だと思う。活用にも限界があり、10年後の宇都宮市の空き家がどうなっているか不安に思う。</p>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家に関して、国の法律も徐々に更新されている。宇都宮市での取組みで特徴的なことがあればご紹介いただきたい。</li> </ul>
生活安心課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家に関して、指導・勧告を担当している。自治会から空き家の情報をいただき、持ち主に対して指導、場合によって強い勧告を行っている。</li> <li>・空き家の活用について、地域住民による空き家の草刈りに補助金を出していたり、空き家を取り壊してコミュニティ広場として活用するなどの取組みを進めている。</li> <li>・また、空き家会議を設置し、利活用のお手伝いを行っている。</li> <li>・今後も、空き家について、適正な管理、空き家にしない取組み、空き家の活用を併せて進めていきたいと考えている。</li> </ul>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家の活用はもちろん、活用できない空き家についての踏み込んだ提言があった方がいいというご意見と思う。その辺りも検討できればいいと思う。</li> </ul>
河又委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策9について、自然災害に関して脱炭素が求められる社会になっている。それに対して、非常にシンプルな表現になっていると感じた。備えだけではなく、脱炭素の取組み等の明確な強化、例えば市民レベルを含めた対応など、もっと文言を使ってほしいと思う。</li> <li>・基本施策10について、子どもやお年寄りというレベルになっている。子どもやお年寄りが1番の弱者であるかもしれないが、中間層に対する安心感がどうなっているのかと感じた。</li> </ul>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策9について、もっと文言を足した方がいいとの意見があったが、足す際のポイントやキーワードがあれば教えていただきたい。</li> </ul>
河又委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本は「脱炭素」だと思う。資料では「低炭素」という言葉が用いられているが、その時代は脱却したと思っている。そこをもっと踏み込んだ、認識を高めるような文言が足されるといいと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱炭素やカーボンニュートラルについて、第3分科会で環境分野について議論いただいております、脱炭素等の取組みについては、そちらに追加されることも考えられる。</li> <li>・基本施策9に関しては、具体的に、「気候変動を引き金とした自然災害」といった文言を追加することも考えられるので、検討させていただく。</li> </ul>

横尾福分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然災害をはじめとする様々な」とあるが、「様々」だと曖昧に感じるので、具体的に書き込んでもいいと思う。気候変動が進展することで、水の問題だけではなく、これまでの想定を超える風が吹く世界もやってくる。細かい話になるが、いくつかポイントを記載し、対応を考えていることが表現されるといいと思う。</li> </ul>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「様々な」、「多様な」といった文言が使われているが、1行ほど長くなっても、もう少し具体的に盛り込んだ方が、私たちが自覚しやすく、分かりやすい表現になると思う。</li> </ul>
謝委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木県の総合計画にあたるちぎ未来創造プランが今年2月に策定された。その中で3つの視点として、デジタル化、新たな日常、SDGsが掲げられている。</li> <li>・デジタル化など技術についてたくさん書かれているが、栃木県のように、新たな日常、もしくは持続可能な社会の実現など、人間味のある環境をつくっていくようなまちづくりの考え方に関して表現が加わるといいと思う。</li> </ul>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの横尾委員の意見について、具体的なキーワードなどあれば教えていただきたい。</li> </ul>
横尾福分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで想定されていた以上の現象が起きたときへの対応、準備という点である。</li> </ul>
木村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策20で空き家について書いてあるが、住環境の中で空き地も問題になっている。空き地の雑草が伸び放題になっている、木が折れそうなど、困っている方がたくさんいる。空き地についても空き家のところに追加してほしい。</li> </ul>
三尾谷委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き地の問題が出ましたが、基本施策10について、子どもの登下校時における対策の推進に関して、黄砂が多かったり、道路がぬかるんでいたりなど、環境問題も多くなっている。自転車事故への対策だけではなく、環境整備も必要だと思う。</li> <li>・地域包括支援センターで、認知症カフェや、健康相談を行う保健室などの活動に関わっているが、活動について地域の人たちにあまり理解されていない。活動のPR等も必要だと思う。</li> </ul>
横尾福分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉関連の話は分野的には第1分科会に該当する。</li> <li>・地域の中で、どんな政策や事業を展開しているか、どんな取り組みがあるのかを伝えていかないといけないのご意見としていただく。</li> </ul>
永井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域によるかもしれない。私の地域では毎月自治会で老人会の会長、地域包括支援センターの方、市民センターの館長など地域に携わる方が集まって情報交換を行っている。</li> </ul>

石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域によるということは、不十分なところもある。</li> </ul>
三尾谷委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル的な取組みを行っている地域などを紹介してはどうか。</li> </ul>
古澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策 6 について、現在宇都宮市の連合自治会で取組みをスタートしたところである。地域のお年寄りが毎日常生活をするために、どんなことに困っているのか、周りにはどんなことをお手伝いできるのか、両方の意見を集めているところで、お年寄りの要望が集まったら、お手伝いする方を募集し、地域のお年寄りが安心して暮らせるような体制づくりを進めている。</li> </ul>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策 11 にも関係してくる話である。</li> </ul>
木村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策 10 について、孤立化、孤独化、ヤングケアラーの問題が今後 10 年間で非常に重要になってくると思う。特に 40 代 50 代でも非正規雇用の方がいて、今後高齢化した際の孤独化が問題である。その辺りの観点が必要だと思う。</li> </ul>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策の分け方についても、提案があれば増やすこともできるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民懇談会の皆様からの提言という形で年度末にいただき、それを踏まえて計画にどう反映させていくのかは、また別に庁内での策定体制がある。</li> </ul>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策は現行の区分があるが、それによらず自由に議論していただく。分科会での意見をどう受け止めるかは庁内で検討いただくことになる。</li> </ul>
水越委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策 10、基本施策 22 について、10 年後を見据えたときに、新しい交通や新型モビリティの方向を捉えているのにも関わらず、自転車にこだわった表現となっていると感じた。新モビリティや電動キックボードなどの交通手段が出てきている中で、自転車を特だして交通事故を減らすとするのは、10 年後を見据えていると思えない。もう少し将来を見据えた表現として、新しいモビリティや交通ルールに基づいた上での快適な交通手段といった書き込みがあるといいと思う。</li> <li>・自転車が悪いという訳ではなく、公共交通機関としても、LRT を東口の整備後、西口も整備する構想がある。そうすると、10 年後に高校生が自転車で学校に通っている意味がないと思う。</li> </ul>
木村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策 20 について、空き家を住宅に対して言及しているが、実際には店舗も空いている。オリオン通りのあたりも景観が悪く問題だと思う。</li> <li>・基本施策 9 について、市民としても関心がある問題だと思う。もっと細かく、具体的に書かれるといいと思う。</li> </ul>

永井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年後のあるべき姿の表現について、末尾が「～されている」とある。市民が主役なのだから、「～する」や「～を進めている」という表現になるのではないか。</li> </ul>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人に意見としては、組織や地域を経営することになった際に、今の状態がこうなっていて、それを違った状態に持っていくとする時に、その状態を示す言葉として、「～となっている」と表現するのがいいと思う。計画などではこのような表現を用いることが多いと思う。</li> </ul>
河又委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策9について、今後10年間で非常に重要な問題なのは気候変動だと思う。気候変動は人間の生活に関わるので、含まれると思う。</li> </ul>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の基本施策でも扱うかもしれないが、基本施策9でもきちんと文言を盛り込んだ方がいいというご意見である。</li> </ul>
横尾副分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策20について、「二荒の森を中心として～、多様で魅力的な都市機構を備える～」とあるが、空間の整備だけではなく、空間が人々の居場所としてどんな場所か整理して示されているといいと思う。宇都宮市には色々な人たちが過ごす場が圧倒的に欠けている気がしている。空間・居場所について、きちんと考えていることが打ち出せるといいと思う。</li> <li>・前回の市民懇談会で高校生をフィーチャーしてはどうかという意見があったが、宇都宮市では高校生も居場所がなく困っていたり、ふらふらしている。他の自治体をみると、高校生たちや高齢者が一緒に過ごす場所がまちの中心にあって、色々な活動が展開されており、宇都宮市にもそういった場所が必要だと思う。</li> <li>・宇都宮大学には300名近い留学生がいる。そういった学生はまち中に行く機会が少ない。</li> <li>・「人」や「活動する場」といった、何か表現ができるといいと思う。</li> </ul>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策11にも関係する話かもしれない。</li> </ul>
謝委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本施策22について、宇都宮市が特に力を入れるべきなのは、歩行者の視点での空間づくりだと思う。歩ける場所、歩きながら何かを楽しめる、人間の感覚が気持ちいい空間が必要だと思う。</li> <li>・横浜市では10年前に歩行者用の道路として歩ける空間をつくっている。歩行者の空間をいかにつくるのが大事だと思う。</li> </ul>
水越委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を発信する立場として、基本施策9について、実際に災害が発生した際に市民全員にどうやってその情報を伝えるのが、1番重要なことだと思う。10年後に高齢化が進み、SNS等の手段を持たない人たちにどうやって情報を伝えるのが課題だと思う。ぜひ、その観点も盛り込ん</li> </ul>

	でほしい。
横尾副分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮市では、大学進学で東京や地方の大学に出てしまっ て、そういった人たちが戻って来ない。10 年後の未来の ために、大学進学で市外に出た人たちが戻ってくるため に、宇都宮市がどのような取組みをするのかが示される といいと思う。</li> </ul>
石井分科会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体によっては「いつでも戻ってきたくなるまち」のよ うに、定住・移住ではなく、休みの日に戻ってくるや、ボ ランティアを手伝ってもらうなどの関わり方を促す施策 を進めているところもある。</li> </ul>